

## 第13回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和4年7月9日(土) 午前10時00分～11時25分

【場 所】プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 1名 新井自治会 3名 落川上自治会 2名  
百草園団地自治会 2名 百草園自治会 1名

事務局：日野市 5名（環境共生部長、クリーンセンター長兼施設課長、ごみゼロ推進課長、ごみゼロ推進課課長補佐、施設課課長補佐）

国分寺市 1名（建設環境部長）

小金井市 1名（環境部長）

浅川清流環境組合 4名（事務局長、事業課長、総務課長、総務課総務係長）

【傍聴者】 3名

【配付資料】

- ・次第 「第13回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・資料2 「プラスチック類資源化施設火災報告」
- ・資料3 「全国ごみ量ランキング報告」
- ・資料4 「可燃ごみ処理施設運転状況」
- ・資料5 「環境定点測定」
- ・資料6 「可燃ごみ処理施設専門家委員会の開催」
- ・資料7 「次期可燃ごみ処理施設に向けた課題等の整理」
- ・資料8 「令和3年度 施設見学実績」

【次 第】

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 日野市

##### ①プラスチック類資源化施設運転状況について

<説明内容>

日野市より資料1に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：令和4年度は令和3年度と比較して、プラスチック製容器包装の個数が3個減となっている理由は何か。可燃ごみに回っていることはないとの理解で良いか。

(日野市)：1日換算で概ね30～50個弱が発生する。日によって異なり、1個当

たりの重さ等もあるが大きな変化はない。

(組 合) : 組合への可燃ごみの搬入量も令和3年度と比べて減っており、プラスチック製容器包装の減った分が組合に回っていることはないと考え  
る。

(委 員) : 資料1の数値は国分寺市・小金井市の分も含まれるのか。

(日野市) : 数値は日野市のみとなる。2市は可燃ごみのみ組合への持込みをして  
いる。

(委 員) : 2市は自市で処理しているのか。

(日野市) : そのとおり。

## ②プラスチック類資源化施設火災報告について

<説明内容>

日野市より資料2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

## ③全国ごみ量ランキング報告について

<説明内容>

日野市より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 上位10位内に三多摩の市が多く入っているが要因などあるか。

(日野市) : 三多摩の市は元々、上位に入っている。この地域についてはごみ減量  
の意識を持って様々な取組をしている、その結果と認識している。

(委 員) : 記載のごみ排出量には可燃ごみ以外も含まれているのか。

(日野市) : 資源ごみ等も含めた総排出量を人口割で算出している。

## (2) 浅川清流環境組合

### ①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料4に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 委託業者の監督体制はどの様になっているのか。これまで問題等は生  
じていないか。

(組 合) : S P C (特定目的会社) である浅川環境テクノロジー(株)に運営を委託  
しており、定期的に打合せ等を行っている。あわせて、別会社に専門  
的なチェックを委託している。細かな改善指導などはあっても、現状、  
大きな問題はない。

(委 員) : 長期にわたるので馴れ合いにならないよう、行政としてしっかりとコ  
ントロールを願いたい。

(委 員) : 灰が大量に出るが資源化などはしていないのか。

- (組 合) : 可燃ごみの搬入6万トンに対し、その1割程度の灰が生じるが、東京たま広域資源循環組合に持ち込み、セメント化するなどの資源化を図っている。また、焼却鉄や落じん灰は売却し、収入となっている。
- (委 員) : 収入はどのような扱いになるのか。
- (組 合) : 組合の雑入となり、令和2年度決算では82万円程度であった。
- (委 員) : 売電をしているが発電効率は良いのか。ごみ焼却だけではなく、発電をしていて、どの位の発電、収入があるのか等アピールした方が良い。
- (組 合) : 発電により組合施設で使用する電気を賄っており、余剰電力は売却により3億円程度の収入となっている。基本は炉の着火後は重油なしで効率良く発電をしている。アピール方法は検討したい。
- (日野市) : 清掃施設建設に当たっては国の交付金1/3となるが、高効率発電(発電効率17%以上)の場合は交付金1/2となり、組合施設は高効率発電に対応している。
- (委 員) : 電気代が上がっているが、その分、組合としては高く売れるのか。
- (日野市) : バイオマス分については東京電力にて高単価での固定価格による買取がされている。
- (委 員) : 電力を売って得た収入はどうなるのか。3市に還元されるのか。
- (組 合) : 施設運営に要する費用に充当される。それにより3市の施設運営のための負担額が少なく済めば、剰余金が生じることとなり、3市に返金をする。
- (委 員) : 30年後に施設を新設することになるが、そのための資金の留保はされているのか。
- (委 員) : 組合は企業会計の考えで減価償却の分を積立てていくようなことはしているのか。
- (組 合) : 組合も公会計の考えで減価償却は行っているが、ごみ処理を目的とした一部事務組合であり、その事務が終了となると組合は解散となる。次期施設を建てる際には各自治体において負担金等を積立てていくことになると考える。施設運営の間は財政調整基金を設置し、不測の事態に備えている。

## ②環境定点測定について

### <説明内容>

浅川清流環境組合より資料5に基づき説明を行った。

### <質疑・応答>

- (委 員) : 測定結果の報告に2、3か月も要するのは何故か。測定された結果をそのまま示してほしい。あまり時間が掛かると疑念をもたれる。
- (組 合) : 委託により実施しており、検査項目等によっては時間を要する部分があるのはご理解願いたい。測定結果は検出された数値をお出ししている。

③可燃ごみ処理施設専門家委員会の開催について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料6に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

3 その他

①次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

小金井市より資料7に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：次期施設建設に向けた課題等の整理との題目であるが、令和6年度の目標に近づけるための課題の記載等がなく数値のみの資料となっている。目標に向けての課題整理がされていない。

(小金井市)：次期施設の検討に当たって、3市のごみ量の状況を計算していかないと規模、場所などに影響する。令和2年度より施設が稼働し、3市のごみ量の推移を見ていくため数値を示している。今後、人口減少が想定される中で、数値を見ていく必要がある。前回のクリーンセンター連絡協議会でも数値を示していくこととなっている。

(委員)：30年後のことについてしっかりと課題を提示して欲しい。数字だけを示されても意味がない。新しく委員になった人は数字を見ても意味が分からない。もう少し、3市が30年後に向けてどうやっていくのかを提案なり、提言されないと誰もついてこない。

②令和3年度施設見学実績について

<説明内容>

日野市より資料8に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

③その他（全体を通しての質疑等）

(委員)：プラスチック類資源化施設について、どの位のお金を掛けているのか。費用対効果はどの程度か。

(日野市)：プラスチック類資源化による収入は殆どない。容器包装と製品プラスチックに大別されるが、容器包装は国の外郭団体に出して処理をしている。その中でペットボトルだけは売却収入があるが、その他は費用が発生している。概算で収集に10億円、施設建設に40億円、運営に2億円程度となる。製品プラスチックは有料で処理して資源化をしている。

(委員)：過去の経緯として、可燃ごみ処理施設を建設する際に、旧炉と同程度

の処理能力にすることを条件とした。その代わりにプラスチック類資源化施設の整備を前倒しして、可燃ごみを増やさない、処理能力を上回らないようにしている。

(日野市)：焼却をすれば二酸化炭素が排出される。プラスチックは極力燃やさず、資源化することが国の方針となる。

(委員)：3市のプラスチックごみの担当が集まって今後の対応を検討して欲しい。収集に労力を掛けて、処理に何億円も掛かるなら、可燃ごみ処理施設で石油を使用する代わりにプラスチックを固めて燃やすなど、効率化を考えて欲しい。

(委員)：溶鉱炉の原料にする、服等の繊維製品や原料などプラスチック類の資源化の行き先はどうなっているのか。

(日野市)：容器包装は材料リサイクルと、ケミカルリサイクルと言って化学反応によりアンモニアなどを抽出する方法の半々で日野市は処理している。製品プラスチックはRPFと言って、プラスチックを再利用した燃料として出している。お金が掛かるのは、以前、製品プラスチックはキロ10円ぐらいで売却できたが、世界情勢でプラスチックの輸入規制がされたことにより、燃料として海外に出せなくなったのが一番の要因。国際情勢や資源物の動向によって変わってくるのが現状である。

(委員)：世界的な値上がりにより再び価値が出てくる可能性はあるか。

(日野市)：そこも難しい。化石燃料に依存しない、それに代わる天然ガス、シェールガスなど資源的なものについてはプラスチック以上に動きがあり、我々の情報量では何とも言えない。

#### 4 閉会

次回会議（予定） 令和5年2月18日（土） 午前10時00分～  
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上